

膀胱炎

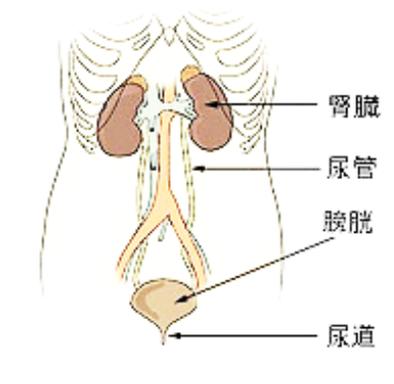


参考文献 膀胱炎の症状と治療ガイド、メルクマニュアル医学百科、
岡山労災病院HP、今日の治療指針2009、
日本家族計画協会HP

膀胱炎とは？

おへその下にある膀胱は、腎臓で作られた尿を一時的に溜めておき、ある程度尿が溜まったら尿意を脳に伝えます。すると脳から排尿の指示が出て、尿道を通して溜めた尿を排出します。

膀胱炎とは、膀胱の炎症によって、その働きに支障が出てしまう病気です。この炎症のほとんどは、膀胱の中に細菌が入ることによって起こります。



どんな症状？

「何度もトイレに行きたくなる」「排尿後に痛みがある」「残尿感」「尿が白く濁ったり、血が混じることがある」が主な症状です。また、おへその下辺りに違和感があったり、排尿に時間がかかったり、熱が出ることもあります。

症状の出かたで以下の様に分類されます

急性膀胱炎

一般的に「膀胱炎」と呼ばれているのが、この病気です。原因となる病気の無いものがほとんどです。**女性に多く、男性は稀**です。**症状は強く出る**傾向にあり、例えばトイレに1日10回以上行きたくなる、排尿を終える前後にひどい痛みが生じる、尿が白く濁ったり血が混じる、などが起こります。

慢性膀胱炎

急性膀胱炎に比べて症状は軽いものの、**治療には時間がかかります**。初めから慢性的な症状の場合と、急性膀胱炎から慢性化していく場合とがあります。

細菌が原因のものと、細菌以外が原因のものがあります。細菌性は、原因となる病気があるものがほとんどです。例えば、前立腺肥大・尿路結石・糖尿病・腫瘍・脊髄損傷・寝たきりなどが原因として挙げられます。

非細菌性は、原因となる病気や病原菌が特定できない膀胱炎です。間質性膀胱炎など、膀胱鏡で病変が見られるものもあります。



放っておいてはダメ？

治療を行わなくても自然に治る場合もありますが、細菌が奥に入ると腎盂腎炎になることもあります。腎盂腎炎になると膀胱炎のような症状の他、高熱が出る、背中・脇腹の痛み、悪寒、むかつき・嘔吐なども現れます。ひどい場合は入院することもあります。

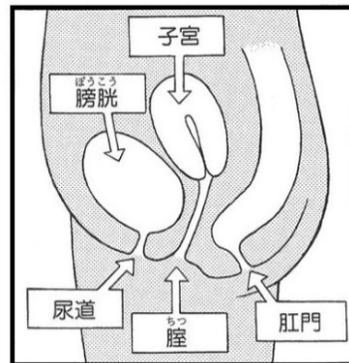
何科を受診する？

泌尿器科の受診をお勧めしますが、近くになれば内科を受診して下さい。妊娠中の女性なら、かかりつけの産婦人科を受診して下さい。

原因は何だろう？

膀胱炎は男性より女性に多い病気です。それは体のつくりが関係しているとされます。女性の尿道は男性のものに比べて短く直線的であり、また細菌のいる膣や肛門が近くにあるため、外部から細菌が入りやすくなっています。

次に挙げる人はかかりやすい傾向にあります。



①排尿を我慢する癖がある人

仕事や外出でトイレに行きにくいなど、尿意があるのに我慢すると、膀胱に入ってきた細菌を外に出す機会が減り、また膀胱内に溜まっている尿の中で細菌が増えてしまうため、膀胱炎になりやすくなります。

②膀胱を空にするのが難しい人

妊娠時はお腹が大きくなり膀胱を圧迫するため、尿が膀胱内に残りやすくなるので、膀胱炎にかかりやすい時期と言えます。出産経験が多い女性では子宮下垂や膀胱下垂が見られ、その場合も膀胱を空にするのが難しいため膀胱炎を起こしやすくなります。尿路結石がある人も同様です。

男性では前立腺肥大も尿の流れを妨げるので、膀胱炎になりやすくなります。

③免疫力・抵抗力が落ちている人

日頃から疲れやストレスが溜まっている人や、無理なダイエットをしている人は抵抗力が落ちることがあり、膀胱に入った細菌に対して免疫機能が十分に働きません。また冷え性の人は膀胱内の温度が細菌の繁殖しやすい環境になりやすく、膀胱炎にかかりやすくなります。

④外陰部の清潔を保ちにくい人

オムツをしている人や、尿失禁のある人は細菌に感染しやすくなります。また、生理用ナプキンやおりものシートを長時間交換しないしていると、細菌が増えやすくなります。

⑤閉経後の女性

エストロゲンと呼ばれる女性ホルモンの分泌が減って、尿道周囲の粘膜組織が薄くなる結果、膀胱炎を繰り返しやすくなります。

⑥他に感染症がある人

特に男性の膀胱炎は、まず尿道に感染し、続いて前立腺、膀胱へと広がって徐々に発症します。前立腺に感染すると薬が届きにくいいため、なかなか完治せず、治りきらないうちに治療を止めると、前立腺に潜んでいた細菌によって膀胱炎を繰り返しやすくなります。

どうやって治す？

病院で診察を受けても、症状が軽ければ水分を多く摂ることで自然に治っていく場合があります。水分補給をしっかりと行い安静にすれば、数日で症状が改善されます。治療中はアルコールや香辛料などの刺激物は避けましょう。

治療薬は？

細菌が原因となっている膀胱炎の場合は、抗菌剤・抗生物質を服用することが治療法です。大腸菌が原因とされる場合が多いので、通常ニューキノロン系やセフェム系と呼ばれる内服薬が処方されます。

急性の膀胱炎なら飲み始めて1～2日で症状が落ち着き、1週間程度で治ります。

重要

症状がなくなったからといって自己判断で薬の服用を中止しないでください。途中で服用を止めてしまうと細菌が駆除しきれず再発し、慢性化することがあります。

◎ニューキノロン系抗菌薬◎ 1日1回服用する薬が中心です。胃薬などに含まれるアルミニウムやマグネシウム、カルシウム剤などと飲み合わせが悪いため、抗菌薬を飲んでから2時間以上を目安に時間を空けないと薬の効果が弱くなってしまいます。

◎セフェム系抗生物質◎ 1日2～3回で服用する薬がほとんどです。一部、鉄剤や制酸剤との飲み合わせが悪いため、このタイプの抗生物質を飲んだ後は、鉄剤なら3時間、制酸剤なら2時間を目安に時間を空ける必要があります。



飲み合わせについては、
薬剤師にご相談ください

慢性膀胱炎では治療が長引きます。また内服を続けても症状が改善されないことがあります。他の疾患がある場合、その治療も考慮する必要があります。

何度も膀胱炎を繰り返す人には、漢方薬が処方されることもあります。

非細菌性慢性膀胱炎で原因が女性ホルモンの低下の場合は、ホルモン補充療法を行います。

予防、または再発しないために。

膀胱に「菌を入れない」、「菌を増やさない」、そして「体の抵抗力を落とさない」ことが重要です。

外陰部を清潔に保つように心掛け、生理ナプキンなどはこまめに交換するようにします。排便後に前から後ろに拭くことも菌を広げない有効な方法です。

普段から水分を多く摂り、尿をたくさん出すようにすると、膀胱内に細菌が増えにくくなります。また、出来るだけトイレを我慢しないで、定期的にトイレに行くように心掛けましょう。

膀胱炎は体調が崩れているときに発症することが多いとされます。過労を避けて心身を休め、特に下腹部を冷やさないように衣類や入浴・環境に気を配ることが大切です。